



ピコ太郎の「PPAP」動画がYouTubeに投稿され、世界的なヒットになっている。SNS動画時代の到来を象徴する事件である。PC やスマホで簡単に動画配信できるようになった。オリジナル版が注目されると、それをネタに沢山の派生動画が世界各地から投稿され、PPAP 関連の動画でお祭り騒ぎになっている。SNS 動画時代は、国内だけでなく世界をも視野に入れて、動画発信を目指す時代であることを、PPAP の成功は示唆している。

### ピコ太郎の「PPAP」動画が世界中に拡散した経緯

ピコ太郎のPPAP (Pen-Pineapple-Apple-Pen、ペンパイナッポーアッポーペン) という摩訶不思議な動画が、世界中で注目されている。国内・海外ではPPAPのオリジナル動画だけでなく、様々な派生動画が次々と発信され、大変な賑わいを見せている。

我が国のSNS動画は、これまで国内志向でありガラパゴス化していた。しかし、ピコ太郎のPPAPは、映画やアニメだけでなく、SNS動画の領域でも、日本は世界で注目され得ることを証明したのである。この意味で、エポックマーキングな作品といってよい。

PPAPは、今年2016年8月25日に、動画サイトYouTubeにアップされた。その約1ヶ月後には、同サイトの「ミュージック全世界トップ100」(9月30日～10月6日付ランキング)で、アリアナ・グランデらを抑えて1位を獲得している。この集計期間1週間での再生数累計は、1億3400万回も再生(関連動画含む)されていたのである。

PPAPが、世界で注目を集めるきっかけの一つになったのは、Justin Bieber (ジャスティン・ビーバー、カナダ出身のポップミュージシャンでシンガーソングライター) が、9月28日(現地時間)に、TwitterでPPAPを「My favorite video on the internet」と情報発信したことにあり、多くのサイトが指摘している。

彼のTwitterのフォロワーは8900万人(2016年10月時点)であり、フォロワーを通じて、世界に広く宣伝されることになった。Justin Bieberは、2012年にForbes誌の「世界で最もパワフルなセレブ」で3位に選ばれ、世界的に支持されている。

日本の芸能人の中にも、SNSで多くのフォロワーを抱える人物で、ツイートしたり派生

動画を発信し、話題になった人物がいる。たとえば、Twitter で 100 万フォロワーを抱える俳優の野村周平 (22 歳) は、9 月 27 日、自身の Instagram に派生動画を発信している。

しかし、Justin Bieber や野村周平らの影響を強調しすぎるのは、正しくない。多様な SNS の世界を単純化し過ぎている。上述の「ミュージック全世界トップ 100」での 1 位が示すように、彼らが注目した頃には、既に世界で注目されていたと推測される。世界には多様な SNS メディアが存在し、相互に影響しあっているのである。

たとえば、BBC ニュース『『ペンパイナッポーペン』がネットを席卷したわけ』(ヘザー・チェン記者、英語版は 2016 年 9 月 27 日) には、「ピコ太郎」の動画が欧米に拡散した事情を、次のように説明している。

「1 分余りの歌の動画が初めて「ピコ太郎」のユーチューブチャンネルに上がった後、フェイスブックで拡散されるのは時間の問題だった。ユーチューブの動画は 400 万回再生されたが、エンターテインメント系のポータルサイト『9GAG』のフェイスブックページでは、再生回数は 4400 万回以上に上った」と伝えている。

さらに、既存のマスメディアの影響も忘れてはならない。ネットメディアで話題になれば、世界各国のマスメディアもこれを一斉に取り上げ、マスメディアの報道が世界で連鎖反応を起こす。国内の民放各社も、次々と放送している。筆者も、10 月前半の民放の娯楽番組で知った一人であり、それから YouTube を見に行ったのである。

欧米のマスメディアは、9 月後半頃から、PPAP の話題を相次いで報道している。英国の BBC 放送のニュースは、9 月 27 日 (現地時間) で、「How a 'Pen-Pineapple-Apple-Pen' earworm took over the internet」と伝えている。アメリカの CNN テレビ (CNN.com) も、9 月 27 日 (グリニッジ標準時) で、「Is this the new Gangnam Style? Internet goes crazy for pineapple pen」と報じている。

アジアでは、シンガポール、マレーシア、韓国、台湾、フィリピン、香港など、テレビや新聞など、50 媒体以上が社会現象としてピックアップして紹介していた (東京中日スポーツ紙、10 月 7 日) という。

ちなみに、日本では NHK が、10 月 18 日の夜 9 時の「ニュースウォッチ 9」で、「日本発世界で大人気の動画」と紹介している。民放各社は、NHK より少し早い 10 月前半の時点から、PPAP の話題を競って、面白可笑しく報じていた。

そして、10 月 19 日には、米「ビルボード・ソング・チャート HOT100」で 77 位をマークし、日本人として 1990 年の松田聖子以来、26 年ぶりの快挙を成し遂げている。

### PPAP が世界的にヒットしたのは、作者の独創性にあるが...

PPAP の動画が世界的ヒットになったのは、SNS が動画時代に入っていた時代背景や、世界のトップスターらによって Twitter 発信されたなども影響しているが、PPAP 自身の作品内容を分析すると、ヒットの法則に忠実であったことが伺える。

PPAP の動画の内容は、スポニチ (10 月 7 日付け) がうまく表現しているので、ここに引用させてもらう。以下のような摩訶不思議な内容であるが、インパクトのある独創的な動画であることは、下記の記述からも窺い知ることができる。

「パンチパーマにちょびひげ、ヒョウ柄ルックに色つきメガネをかけたあやしい中年男の名は、ピコ太郎。ペンとリンゴを合体させ、パイナップルとペンを合体させ、それぞれ合体させたものを合体させ、『ペン、パイナップル、アップル、ペン』を架空で作り出し、得意げに『ペンパイナッポーアッポーペン』とキメている」という内容である。

PPAP の動画を見たことの無い人は、是非、YouTube 等の動画共有サイトで、オリジナル版だけでなく、派生版の動画も、一緒に楽しんで欲しい。

ポイントは、動画で歌われる歌詞（下記）の内容にある。68 秒という短い動画作品のなかで、歌詞は中学生にもわかる英文で書かれており、韻を踏んだリズム感のある繰り返し（入れ子構造になっている）で、シンプルに構成されていることが一目瞭然である。

I have a pen~	I have a apple~	oh!!	Apple pen !
I have a pen~	I have a pineapple~	oh!!	Pineapple pen !
Apple pen~	Pineapplepen~		Pen pineapple apple pen ♪

世界で通用する言語（英語）で誰にも簡単に理解できる表現、韻を踏んだ簡単なフレーズの繰り返しで中毒性がある、誰でも簡単に真似できるが不思議な振り付けなどの点からみても、国内だけでなく海外を意識して、制作していることがわかる。

ピコ太郎が同作品を綿密に制作していたことは、本人による正しい踊り方を解説した動画（YouTube 9月26日公開）からも分かる。ただ、本人は、「歌詞は、ペンとリンゴが手元にあったことがきっかけで、わずか1分ほどで完成した」と述べている。

これは、ギネスを受賞して、外国特派員協会での記者会見（10月28日）と述べているが、筆者は、最初の思いついた歌詞と振り付けに、その後、推敲を重ねたと思っている。

さて、PPAP でもう一つ注目すべきは、我が国では、解らない、つまらないと評する人が、大変多いことである。すなわち、PPAP は、一般的な日本人からすれば摩訶不思議な作品であり、理解しがたい部分が強くあったといつてよい。

これは、欧米のマスコミが取上げた（9月の下旬）後に、欧米に追従する形で、日本のマスコミが取上げた（10月上旬）ことから伺える。海外の SNS 動画を通じて、世界中で注目されるようになってから、日本でも広く注目を集めるようになり、日本に逆輸入されたと解釈することもできる。

それは、作者であるピコ太郎（以前からの芸名は、古坂大魔王）の芸歴からも伺える。古坂大魔王は、芸人仲間の世界では高く評価されてきた芸人なのに、特異な才能のために、日本のマスコミ受けをしなかった人物であった。ラリー遠田氏の言葉を借りれば、

「古坂はもともと爆笑問題やくりいむしちゅーと近い世代の芸人だった。彼らの間では、昔から古坂は『天才』と言われてきた。（中略）同世代の芸人たちは誰もがそれを認めていた。ただ、この才能は、テレビで売れるための才能とは別ものだったりする。そこに問題があった」（出典 「ピコ太郎」が世界でこんなにも売れた理由、ラリー遠田、東洋経済 online、2016年10月25日より）と、いうことである。

今回のピコ太郎の世界的ヒットで重要な点は、日本のマスコミやメディアが取上げようとしないうる異色の才能や作品でも、国内外で自由に視聴できる SNS 動画を介せば、世界的に認められる可能性が大いにあることを、証明した点にある。

## SNS は、オリジナル動画と派生動画を、一緒に楽しむ時代を迎えた

以上みてきたように、誰もが自由に自分の作品を世界に発信できる SNS 動画の時代は、優秀だが周囲から評価されてなかった才能、本人自身が気づかなかった優れた才能を、開花させられるチャンスを提供してくれると、考えることができる。

SNS 動画時代の到来が画期的なのは、誰もが簡単に SNS 動画を制作し、共有できる点にある。同時に、手本となるオリジナル動画をネタにして、簡単にアレンジした派生動画を、誰もが自由に発信し、互いに楽しむことができる点にある。

PPAP 以前にも前例がある。2012 年 7 月 15 日に、YouTube に公開され世界的に大ヒットした韓国人 PSY (サイ) の「江南スタイル (Gangnam Style)」である。YouTube で注目を集めると、世界各地で派生動画が次々と公開され、世界中を賑わしたのである。

2016 年は、ネット上に「SNS の動画配信元年」というタイトルが、数多く見られるようになった。それは、SNS のサービスを提供する側が動画配信をしやすい仕組みを用意し始めたことと、動画の愛好者自身が簡単に動画の作成・編集できる動画アプリをネット業者が提供しはじめたことの 2 つによる。

筆者が注目している SNS の動画アプリは、MixChannel (通称は、ミクチャ) である。スマホで 10 秒の短編動画を撮影したり編集したりして、投稿することができるアプリである。2013 年のサービス開始以来、我が国の女子中高生を中心に人気を集めている。

SNS の世界における昨今の動画対応化の進展が、PPAP の膨大な派生動画(そっくり版、パロディー版、リミックス版などいろいろ)を、世界中に生み出しているのである。

PPAP の成功は、話題になったオリジナル動画を視聴して楽しむ時代から、視聴者やフォロワーが派生動画を簡単に製作・発信して積極的に楽しむ時代へと変わり始めたことが、大きく影響していると考えてよい。最後に、PPAP で注目を集めたツイッターや派生動画の内容を、いくつか簡単に紹介することにしたい。

- ・世界的に著名な作家「村上春樹」の独特の文体を真似て、PPAP について記述したらこうなるという twitter での投稿が、「それらしい」と話題になっている。
- ・双子の「りかりこ」が PPAP を踊る派生動画「PPAP やってみた♡」が、YouTube の他の派生動画にも取り込まれて多数紹介されている。「りかりこ」は、動画アプリ「ミクチャ」(上述)の「カップル動画」で注目され人気を集めている女子高校生である。
- ・タイのピアニスト Christopher Janwong McKiggan による派生動画が、国内外で注目を集めている。タキシード姿の Janwong 自身がグランドピアノで、PPAP の曲を面白可笑しく演奏している内容で、動画内には縮小合成されたピコ太郎の踊りを重ねている。
- ・香港警察が作成したパロディー版で、同警察が「シートベルト着用」を啓発するための動画である。警察の車に乗った 2 人の警官が「I have a belt. I have a buckle. Ugh! Seatbelt」といった PPAP の替え歌を、歌う内容になっている。
- ・PPAP の犬バージョンで、tora pom happylife さんがインスタグラムにアップしている動画で、可愛いと評判を得ている。パグ (Pug) 犬と柴犬の 2 匹が、手編みのリングとパイナップルと鉛筆を頭上に装着し、踊らずに静かな動きで PPAP を演じている。

(TadaakiNEMOTO)